

# 日本は眠れる資源大国なのだそうだ。

まず、石油は無尽蔵にあり、ほかの天然資源も豊富なのだという。

それらの資源は海底にあるらしい。

海底資源の定義というのがあって、国土近辺に眠っている資源ということ。日本の海底資源は日本近海に眠っている資源のことです。

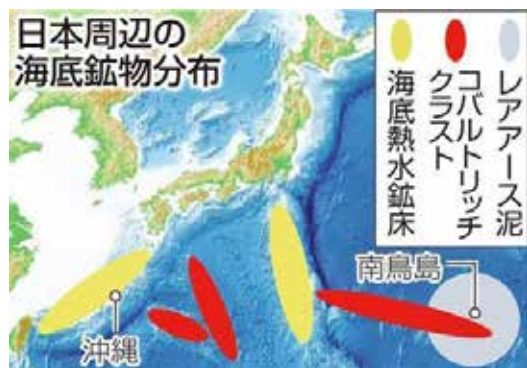
日本の領海排他的経済水域の海底に金・銀・銅・亜鉛・鉛・石油・コバルト、リッチ・クラスト、メタンハイドレートなど鉱物資源・エネルギー資源が確認されています。

海底資源は主に

- 石油・天然ガス
- 熱水鉱床（金・銀・銅・鉛）
- ガスハイドレート（主にメタン）
- マンガン団塊（鉄・マンガン団塊、コバルト・リッチ・クラスト）の4つに分類できます。

この4つの中で日本近海に多いのは海底熱水鉱床。鉱物資源の量は300兆円相当といわれます。

中でも鉱物資源の代表例がメタンハイドレートです。



メタンハイドレートは天然ガスの主成分であるメタンと水が低温・高圧の状態では結晶化した物質で、伊豆諸島と小笠原諸島周辺と東シナ海から与那国島にかけてのエリアに多く分布していると推測され、国産エネルギー源として期待されています。

なかでも、「海底熱水鉱床」と呼ばれる鉱物資源が注目されています。

鉱物は鉱山で採掘されるものと思われませんが、鉱物は海の中にも存在します。

「海底熱水鉱床」は日本の新しい資源として期待を集めています。

「海底熱水鉱床」は

- ①海底の海水が海底深部の火山活動で250～300度に熱せられ
- ②熱水が海底から噴き出したときに海水にふくまれている金属が冷却・沈殿されて鉱床が形成される。

こうしてできた海底の熱水鉱床には銅・



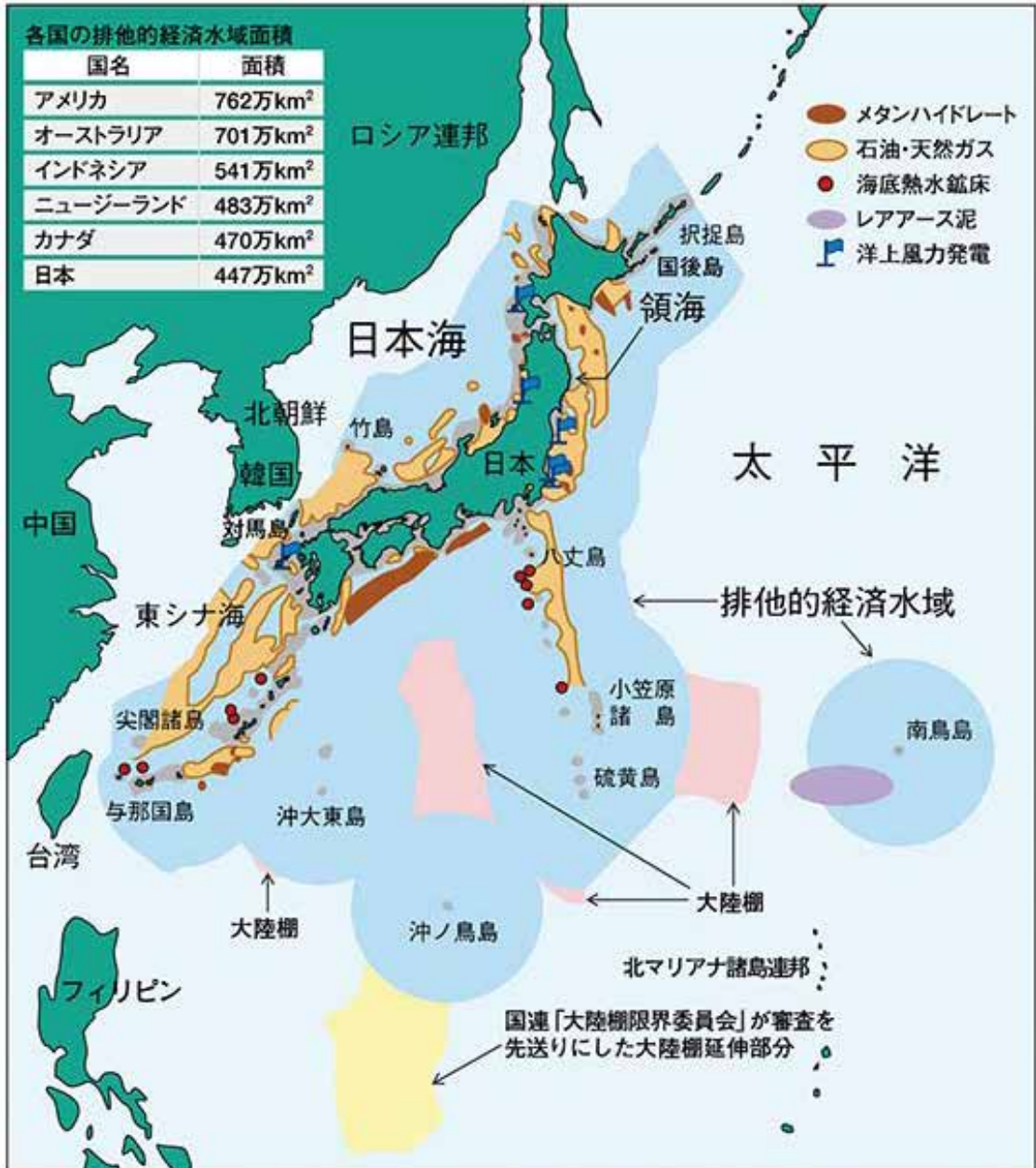
鉛・亜鉛などのベースメタルと金・銀などの貴金属。

ゲルマニウムやカドミウムなどのレアメタルが含まれています。

こうした金属類は携帯電話やテレビ・パソコンなどに使われています。

しかし、鉱物資源の中で現在日本自前のものは硫黄のみでそれ以外の原料は全て、輸入しています。

国内資源が乏しい日本。海洋資源の開発は輸入に頼らず、自前資源でまかなう大きなチャンスといえます。



日本の排他的経済水域と海底資源の分布